

南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ
第8回会合

被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)共同代表幹事
IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表
川北 秀人 氏 提供資料

平成24年9月4日

つなプロ避難所アセスメント 第2週までの分析 要旨（4月10日時点）

分析1 食生活

- * 炊き出しの実施や支援物資の供給により改善が見られるが、おかずが提供される食事は平均1日1.2食。パン・おにぎり・カップ麺中心の生活は続いている
- * 高齢者向け特別食、糖尿病食、アレルギー対応食、粉ミルクなどへの対応は進んでいない
- * 指定避難所でなかったため情報共有不十分、ライフラインが未回復または使用困難といった特徴が、おかずが供されていない避難所に散見される

分析2 医療衛生

- * インフルエンザ、ノロウイルスの両面で集団感染発生の傾向あり。間仕切りの無さ、衛生環境の悪さが原因にあると見られる
- * 上水道/下水道復旧状況によりトイレ状況は異なる。下水道未復旧エリアでの汚物回収は週2.1回にとどまり、衛生環境は良いといえない
- * 高齢者や歩行困難者による使用という観点でトイレに問題を持つ避難所が64%存在

分析3 避難所設備

- * 「間仕切り」「更衣室」が設備済みの避難所は20パーセント強にとどまり、プライバシー問題が危惧される
- * 掲示板(83%保有)・テレビ(72%保有)が情報提供環境の中心。ただしテレビや電話すらない避難所も30%程存在しており、情報環境の改善が求められる

分析4 高齢者・要介護者

- * 避難所あたりの高齢者(65歳以上)比率は36%と、前週の34%から微増
- * 38%の避難所で、要介護者が滞在。5人以上おられる施設は5.5%
- * 要介護者5人以上の避難所のうち、介護向け施設では食事等の配慮がなされている。しかし学校など一般施設では配慮不十分

分析5 子供

- * 18歳未満の避難所生活者は7.5%と限定的ではある。但し、母子スペース9%、粉ミルクの普及が12%に留まる現状の改善は求められる

分析6 外国人

- * 二週間の調査を通じて、21避難所で108人の外国人被災者を確認。中国人が多い

分析7 基本データ

- * つなプロアセスメント第2週(4/4-4/9)より、セグメント別の避難者数概要を試算。一避難所あたりの「避難者総数」「退去者」「自宅に戻った人数」は減少、「被災地外の転居」は増加し、県外への移転が若干進んでいる傾向。一避難所あたりの人数は要介護者2.5人、障害者1.0人

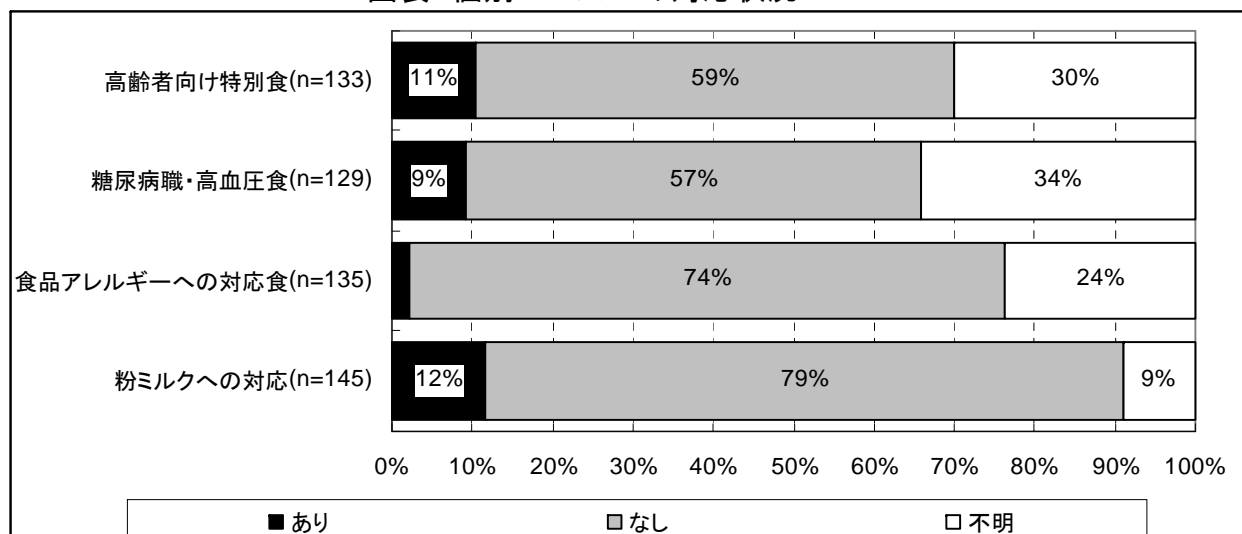
分析①-1 「食生活」

- 炊き出しの実施や支援物資の供給により改善が見られるが、おかずが提供される食事は平均1日1.2食。パン・おにぎり・カップ麺中心の生活は続いている
- 高齢者向け特別食、糖尿病食、アレルギー対応食、粉ミルクなどへの対応は進んでいない。

アセスメントからの事実

- 一 食事の内容は依然として炭水化物に偏っている (n=109)
 - ・食事はパン・おにぎり・味噌汁・カップ麺のみでおかずや炊き出しの提供が無い避難所: 6.4% (7カ所)
 - ・1日に1食はおかずのある食事を提供: 57.8% (63カ所)
 - ・1日に2食以上おかずのある食事を提供: 21.1% (23カ所)
- 一 食事の個別ニーズへの対応は進んでいない
 - ・食品アレルギー食は2% (3カ所)、高齢者向け特別食は11% (14カ所) で対応済み

図表 個別ニーズへの対応状況



分析①-2 「食生活」

- 指定避難所でなかったため情報共有不十分、ライフラインが未回復または使用困難といった特徴が、おかずが供されていない避難所に散見される

図表 おかず・炊き出しが提供されていない7避難所の特徴*


	避難者数	高齢者	昨日の朝食内容	昨日の昼食内容	昨日の夕食内容	食事備考	その他備考(一部抜粋)
A	120	70	おにぎり、ぱん、缶詰	カップラーメン		栄養が偏っており、温かい食べ物がほしい。	
B	70	45	即席めん等	おにぎり1個～2個	おにぎり1個～2個	おにぎりやインスタント食品が多いため、野菜や魚を食べたいという話を聞いた。糖尿病の人や特殊な人のための食事は用意できていないという。	避難所の人から聞いたエピソード・避難所生活でプライバシーがあまりないことをストレスと感じている。
C	70		食事はパンとおにぎりの繰り返し	同上	同上	副食であったり、野菜・果物などが欲しい。調理したものが食べたい。	(看護師より)もともと、指定避難所ではないため、行政や近隣の団体との情報共有がなされていない。特に困っていることは、頼んだ物資がいつ届くかとか届けられないとか、前日の夜に「明日の朝、お風呂を持ってきます。」という自衛隊からの情報が入るなど、情報伝達がうまく機能していないことである。
D	35	10	パン	カップラーメン	ごはん、味噌汁	偏った食事	
E	35	31	おにぎり、カップラーメン等	おにぎり、カップラーメン等	おにぎり、カップラーメン等		生活用水は、山下の沢で汲み取って使っており、食器洗いも山下の沢で行うため、水運びや食器運びが大変。NPO団体も良く訪れるそうであった。行政に対して少し不満を述べていた。
F	20	0	レトルトのパックごはん	カップラーメン	ごはんと味噌汁	高齢者はカップラーメンを食べない。栄養が偏っている。	ストレスがたまっている。適切な衣類がなく、洗濯もできないため、不衛生な状態。車が入れない急な坂の上にある。(略)近隣の方も、風呂に入っていない状況が確認された。ボランティア、調査もほとんど来ていない様子。
G	8	0	おにぎりやパン	なし	おにぎりやパン		健康状態も良く、大きく体調を崩す人もいないようだった。ただ、水道・ガス・電気すべてのインフラが回復せず、所内の衛生状況は決して良い状況ではなかった。毛布は海水に浸かったものを乾かして使用し、現在も洗えていないようだ。ただ、衣服は近くの湧水で洗えているとの事。

* アセスメントが行われた前日の食事のみの結果であり、毎日おかずが供されていないとは限らない

分析②-1 医療衛生— 感染症

- ・ インフルエンザ、ノロウイルスの両面で集団感染発生の傾向あり。
間仕切りの無さ、衛生環境の悪さが原因にあると見られる

アセスメントからの事実

- ・1箇所の避難所で避難者の30%強が体調不良。集団感染症の疑い
 - ・避難所3箇所で、10名以上の感染症罹患が報告
 - ・調査結果によれば、発見された病気では風邪が多数
(具体的な病名)
風邪(13箇所) インフルエンザ(5箇所) 胃腸炎(ノロウイルス含む)(5箇所) 肺炎(2箇所)
- 
- ・感染症罹患が発生した25箇所のうち、間仕切りのある避難所は2箇所(8%)と、調査対象全避難所の24%を下回る数値となった。
 - ・胃腸炎罹患の避難所5箇所のうち1箇所が清掃状況を把握していることを除いて、他のすべてでは、トイレ汚物回収・清掃状況ともに把握できていない。

分析②-2 医療衛生ー トイレ(汚物処理)

- 上水道/下水道復旧状況によりトイレ状況は異なる。
下水道未復旧エリアでの汚物回収は週2.1回にとどまり、衛生環境は良いといえない

アセスメントからの事実

- ・普及状況
1避難所あたり平均トイレは9.5個、トイレ総数835個(N=88)
地域別では、1トイレ当り避難者数がA市65名、B町18名と全体平均11名と比較して、多いところもある。
- ・汚物回収状況
平均2.1回／週(N=17)
個別ニーズとしては、
 - －「水が流せない」
 - －「水洗トイレは使えない。汲み取りもまだ来ていない」
- ・清掃状況
避難所の60%(N=118)ではトイレの清掃ルールが存在し、残りはルールが無いが、把握していない。
定性コメントでは、住人による持ち回りの清掃を行ない、概ね満足との回答が多い

分析②-3 医療衛生ー トイレ(通路、設備)

- ・ 高齢者や歩行困難者による使用という観点でトイレに問題を持つ避難所が64%存在

アセスメントからの事実

ートイレまでの通路に問題があった避難所は64%(N=96)

(問題の具体例) 複数回答

- ・外に出る必要がある(屋外の仮設トイレ)(29か所)
- ・通路に階段、段差がある(18か所)
- ・電灯がなく、夜間使用が困難(6か所)
- ・通路が狭く、通りづらい(3か所)

ー高齢者向けポータブルトイレがある避難所は12か所に留まる(N=47)

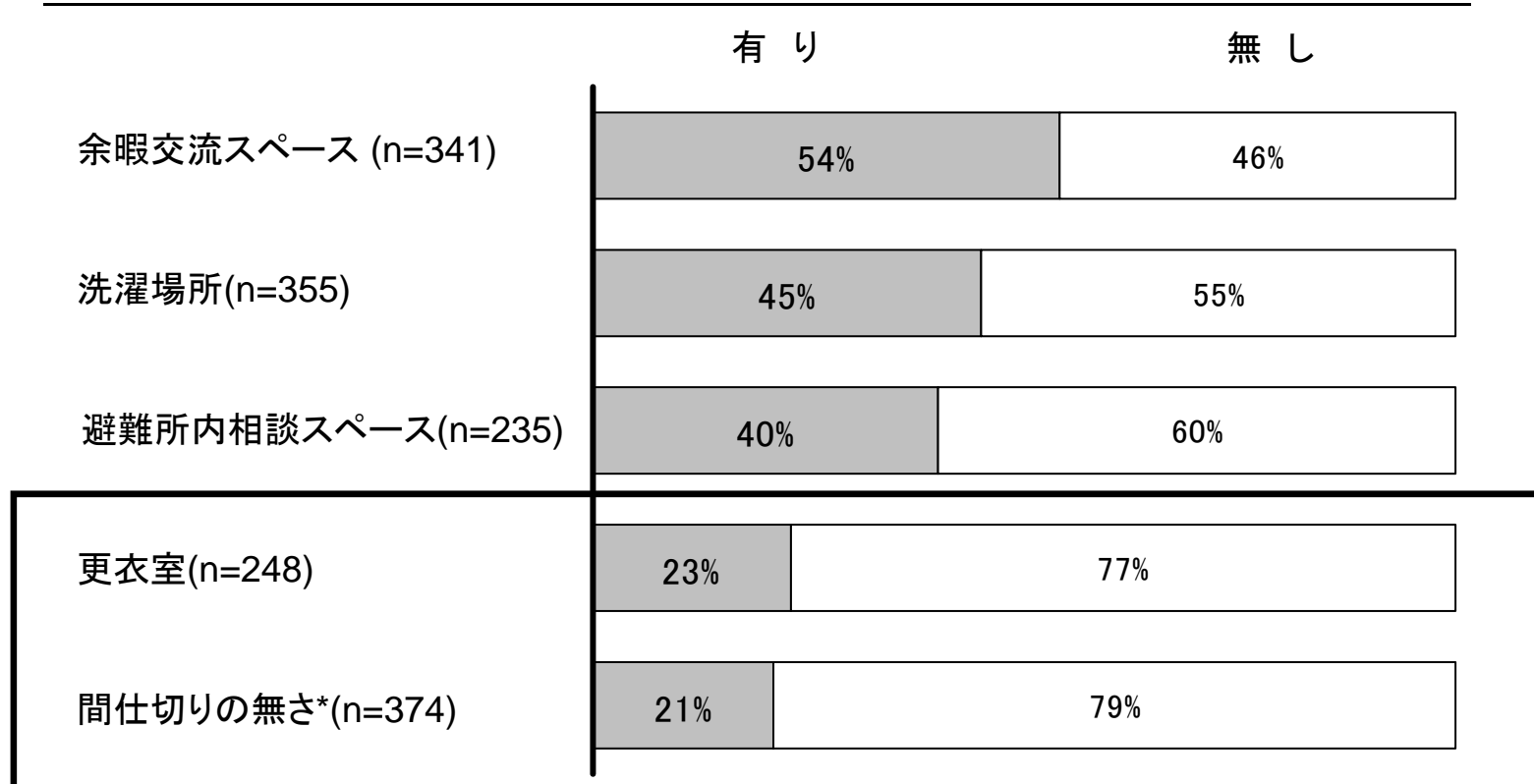
(個別事例)

- ・「泥水で流している状況。トイレトーパーは足りている」
- ・「トイレは屋外に穴を掘って囲いをつくって設置」

分析③-1 避難所設備— 施設状況

- 「間仕切り」「更衣室」が設備済みの避難所は20パーセント強にとどまり、プライバシー問題が危惧される

避難所内施設状況



*間仕切り要望あり。他避難所では間仕切りがない方が安心できるという声もある

資料: つなプロ アセスメント 第1週と第2週の調査

分析③-2 避難所設備— 情報インフラ

- ・ 掲示板(83%保有)・テレビ(72%保有)が情報提供環境の中心。
ただしテレビや電話すらない避難所も30%程存在しており、情報環境の改善が求められる。

アセスメントからの事実

- 情報提供掲示板やテレビを中心にインフラは一部整っているが、避難所によりバラツキがある
- 内訳は以下の通り(下記は判明している避難所における施設数割合 *1)

情報提供 掲示板 N=173	共用テレビ N=159	共用電話 N=131	相談窓口リスト N=124	音声アナウンス N=112	共用パソコン N=104	共用FAX N=81
83%	72%	67%	60%	41%	19%	2%

- 情報提供掲示板がない避難所も29箇所(17%)あり、外部情報から遮断されている場所や、掲示板以外にバラバラに張り出されている場所もある。*2

(個別事例)

- ・ 「職員にネット活用の実績があっても、繋がっていない」
- ・ 「A中学校には、インターネット接続可能なiPadを1台設置されている」
- ・ ラジオで情報取得している避難所も11箇所ある

*1 避難所における施設数割合=該当施設数/有効回答避難所数

*2 データ上で確認できる範囲では掲示板がないが、一部ネット上で確認できる避難所もある
資料: つなプロ アセスメント 第1週と第2週の調査

分析④-1 「高齢者」「要介護者」

- 避難所あたりの高齢者(65歳以上)比率は36%と、前週の34%から微増。
- 38%の避難所で、要介護者が滞在。5人以上おられる施設は5.5%。

アセスメントからの事実

- 避難所内の高齢者割合の平均は36.2% (n=236カ所、宮城県のみ)
- 宮城県内で高齢者率50%以上の避難所が14.0% (33カ所、うち5カ所は高齢者率100%)
- 避難所規模別では51-100人
- 要介護者が1人以上いる施設は37.5% (45カ所)。5人以上いる施設は5.5% (13カ所)で、うち7カ所が学校・市民会館

図表 避難者数・所在地別 高齢者50%以上施設割合

		①高齢者率 50%以上 施設数	②施設数	50%以上 施設割合(①/②)
避難者数別	30人以下	8	77	10.4%
	31~50人	6	46	13.0%
	51~100人	10	36	27.8%
	100人以上	9	77	11.7%
	無回答	0	27	0.0%
合計		33	263	12.5%

分析④-2 「高齢者」「要介護者」

- 要介護者5人以上の避難所のうち、介護向け施設では食事等の配慮がなされている。
しかし学校など一般施設では配慮不十分

図表 要介護者5名以上の避難所一覧(施設種類別・要介護者順)

	現在の 避難者 総数	高齢者(65 歳以上)	要介 護者	その他の 要配慮者	食事備考
介護向け施設					
A	117		95	1	腹いっぱい食えるようにしている。震災前と変わらない質の食事を提供できるよう努力している。
B	29	0	21	0	生鮮野菜が不足している
C	15	10	10		入ってくる物資を用いて営業している。
D	192	63	6		アレルギー、病気などの食事の配慮は個人に任せている。ごはんは自衛隊が支給、汁物は炊き出し。お昼は10時、夜は4時に食事。一日2回。
E	90		5		訪問時、昼食に甘いパンとドーナッツが同時に提供されていて、高齢者は残していた(現地確認)
学校・避難所・集会施設					
F	400		50	不明	物資として調味料(片栗粉など)を希望。アレルギー者はこれから今後調査予定。
G	300	0	20	1	生鮮野菜が不足している
H	160	10	13		内容はおにぎり菓子パンで、たまに自衛隊の炊き出しがある。炊き出しの配給はボランティアが担当しているので負担が大きい。
I	0		8		味噌、醤油がほしい
J	48	19	5	透析11人 糖尿5人	透析、糖尿病患者に応じた食事がなされているか不安。
K	280		5		子供用の卵抜きのアレルギー食が全然足りていないとのこと。
L	315		5	不明	物資として調味料(片栗粉など)を希望。アレルギー者はこれから今後調査予定。
M	72	20	5	0	サラダがなくなり、豚汁などで野菜を補っている。果物は充実している。

分析⑤ 「子ども」

- 18歳未満の避難所生活者は7.5%と限定的ではある。
但し、母子スペース9%、粉ミルクの普及が12%に留まる現状の改善は求められる

アセスメントからの事実

- ・確認できている18歳未満の子どもの避難所生活者は915名(115避難所)
- ・内訳は小学生が多い(下記は判明している避難所における人数割合 *1)
 - ・新生児(0歳児):0.2%
 - ・幼児(1歳～未就学):1.4%
 - ・子供(小学生):3.7%
 - ・12歳以上～18歳:2.2%
- ・遊ぶスペースのある避難所は51%に対して、母子スペースのある避難所は8.6%と少ない
(左記は判明している避難所における施設数割合 *2)
- ・粉ミルクに対応済みの避難所は12%(n=145)
- ・学校などのグラウンドのある避難所には、教師もいるため、被災されている18歳以下の青少年が多い傾向がある

資料: つなプロアセスメント 第2週(4月4日-4月9日)

*1 避難所における人数割合=該当人数/避難者総数(N=24,243)

*2 避難所における施設数割合=該当施設数/有効回答避難所数(遊ぶスペース:N=170、母子スペースN=139)

分析⑥ 「外国人」

- 二週間の調査を通じて、21避難所で108人の外国人被災者を確認。中国人が多い

アセスメントからの事実

・前回のファクト

- －確認できている外国人の避難所生活者は95名(13避難所)
- －外国人の国籍は中国人が多い
 - ・中国人:8か所
 - ・韓国、台湾、ベトナム、フィリピン、ネパール:各1か所
 - ・国籍不明:6か所
- －中国人を中心に70人の外国人避難者が生活する避難所も
- －避難所を出た外国人の報告件数:4件

・今回のファクト

- －確認できている外国人の避難所生活者は13名(8避難所)
- －判明している外国人の国籍は中国、韓国(各1名)、他は不明
- －コミュニケーションに関する課題は、今回のアセスメントからは特に見られない

分析⑦ 基本データ(参考)

- 第二期「つなプロ」調査(4/4-4/9)より、セグメント別の避難者数概要を試算。
- 一避難所あたりの「避難者総数」「退去者」「自宅に戻った人数」は減少、「被災地外の転居」は増加し、県外への移転が若干進んでいる傾向。一避難所あたりの人数は要介護者2.5人、障害者1.0人

		回答 避難所数*	該当人数 小計*	一避難所あたり 人数*(4/9)	【参考】 一避難所あたり 人数(4/2調査)
基本数	避難者総数	236	24243	102.7	168.4
	過去一週間の入居者	66	2730	41.4	102.7
	避難所外就寝者数	61	2215	36.3	84.9
	退去者数	87	13291	152.8	365.3
	自宅に戻った人数	29	808	27.9	128.1
	被災地外への転居数	26	374	14.4	8.6
	病院・福祉避難所への移動人数	26	21	0.8	2.6
年齢別	新生児 0歳児	131	26	0.2	0.6
	幼児 1～未就学	121	175	1.4	2.6
	子供 小学生	118	443	3.8	7.4
	12～18歳	91	271	3.0	5.4
	高齢者 65歳以上	104	3185	30.6	56.6
配慮者	妊婦	125	4	0.0	0.1
	要介護者	120	299	2.5	2.2
	アレルギー患者	101	18	0.2	0.1
	その他要配慮数	80	40	0.5	0.1
	外国人	135	13	0.1	0.7
	対応必要な信仰	55	0	0.0	0.0
障害	障害者総数	137	140	1.0	2.5
	肢体不自由	96	97	1.0	1.7
	聴覚障害	91	10	0.1	1.1
	視覚障害	85	6	0.1	0.2
	知的精神障害	96	54	0.6	1.4
	自閉症・発達障害	88	8	0.1	0.3

・避難所により把握できたデータは異なる。数字は把握できた避難所数と、その避難所における該当小計、この二つの数字から、一避難所あたりの該当数を試算
資料: NPOアセスメント調査(4月4日～10日)